

《目的》大学生女子の甘味、酸味、塩味に対する感受閾値と嗜好との間にどのような関連性が見られるのかを明らかにし、また大学生女子の閾値を各年齢層の閾値と比較検討した。
 《方法》18〜23歳の大学生女子98名について、ショ糖(甘味)、クエン酸(酸味)、塩化ナトリウム(塩味)の等差濃度水溶液を検査試薬として全口腔法により感受下限閾値を調べ、また甘、酸、塩、苦味食品に対する嗜好調査を行った。比較群として幼稚園児男女43名、小学生男女51名、大学生男子68名、老年者61名につき、上記の閾値検査を行った。

《結果》(1)甘味閾値では、高濃度で検知した被検者ほど、酸味食品に対する嗜好度が高値傾向であった。酸・塩味閾値では、高濃度で検知した被検者ほど、甘、酸、塩味食品に対する嗜好度が高値傾向であった。また大学生女子の閾値と嗜好との関係を、閾値別5群の嗜好度を変数として、数量化Ⅲ類による解析結果、上位2個の固有値は、甘味では0.578、0.195、酸味では0.299、0.256、塩味では0.393、0.237であった。2次元空間上で、3味とも、低濃度で検知した群と高濃度で検知した群にはっきりとわかれ、高濃度で検知した群に、対応する食品が多く見られた。つまり、閾値が高値傾向であると食品の嗜好度が高く現われることが示唆された。

(2)大学生女子では、甘、酸、塩味に対する閾値は、同年齢の男子に比べていずれもやや低く、ショ糖濃度0.1〜0.8%、クエン酸濃度0.01〜0.07%、塩化ナトリウム濃度0.02〜0.10%の範囲で大部分の者が感受した。これらの値は、老年者に比べ明らかに低値、幼少年者よりもわずかに高値であることがわかった。